『若旦那一つお頂き申しまよか』
『サア飲め〳〵。そんな小ちやい物ではあかん、是れ飲め』
『マアそんな大きな物……』
『宜えがな。グツと飲で何ぞ芽出度い物演て呉れ』
『モウ醉ふて仕舞ふて聲も何も出やしまへんのやで……』初春や、日なたへ直す福壽草……』
『ヨウ〳〵〳〵〳〵……』。
『ヘエ御免やす。鳥渡お頼ふ申します』
『ハイお越しやす。』
『貴方はん處へ、船場の播磨屋の若旦那がおいでに成て居やしまへんか』
『ヘエ……イヽエ根つからお越しやござりまへん。他さんと違ひますか』
『アヽいや〳〵。隱して頂くと困ります。私は東堀の灰屋の常治郎と云ふ者で、今日若旦那と逢ふ約束がして有たのを、手放せぬ用事の爲に手間取て漸ふ今やつて來ましたのぢや。定めし若旦那もお待ち兼の事と思ひます、決しておいでに成らぬ筈は無いと思ひますが』
『アヽ左樣でおますか。そんならお在でかも知れまへん』
『そんなジヤラ〳〵した事……』

『どふぞ暫くお待ちを……』
二階へトン〳〵と上つて參りまして
『アノ若旦那』
『何ぢや』
『只今下へ、東堀の灰屋の常治郎さんと云ふお方が、若旦那にお目にかゝり度い云ふて見えてゝ御座りますが』
『何灰常はんが、妙やなア。俺しが此處へ來てる事を何んで知つてはるのやろ。ハハア又例もの大梅やと思ふて往て見やはつたんやな。それで大梅で聞いて來やはつたんや。粗相の無い樣にお通し申し。コレ繁八、一八、お前等二人も下までお出迎ひに往といで』
『ヘエ、承知いたしました。』
割間二人は下まで飛で降りて來まして
『オヽこれは灰屋の旦那樣で御座りますか、先程からもう、播磨屋の若旦那が大待兼でござります。さアどうぞ。さアどうぞ』
『アヽ若し、其樣に叮重にして頂きますと、豪い難儀を致します。あのチツト若旦那にお話申し度い事がムりますねが、二階へ上りますと反つて御面倒を掛けます。どうぞ一寸下まで降りて頂く樣、